

中学1年生の英文法：動詞と文の基本ルール

【be動詞】動きがなくて「状態」を伝える



存在（～にいる/ある）や状態（～です）を表す。
種類は am, are, is の3つだけ。

am, are, is

【be動詞の疑問文】be動詞を前に出して「様子」をたずねる
主語とbe動詞をひっくり返すだけ。
You are a student. → Are you a student? Yes, I am. / No, I am not.

【be動詞の過去形】その時の「状態」を過去形で伝える

am / is → was are → were

「～でした」「～にいました」。

【疑問詞】もっと具体的にたずねる

What(何), Who(誰), Where(どこ),
When(いつ), Why(なぜ), How(どう)など。
必ず文の先頭に置く。

時を表す表現（時制）

L 【現在進行形】今している最中の「動き」を表す

形：be動詞 + 動詞ing形。
「～しているところです」。

L 【過去進行形】その時していた
「動作」を映像のように映す

形：was / were + 動詞ing形。
「(その時)～していました」。

存在（～にいる/ある）や状態（～です）を表す。
種類は am, are, is の3つだけ。

am, are, is

【be動詞の疑問文】be動詞を前に出して「様子」をたずねる
主語とbe動詞をひっくり返すだけ。
You are a student. → Are you a student? Yes, I am. / No, I am not.

【be動詞の過去形】その時の「状態」を過去形で伝える

am / is → was are → were

「～でした」「～にいました」。

【疑問詞】もっと具体的にたずねる

What(何), Who(誰), Where(どこ),
When(いつ), Why(なぜ), How(どう)など。
必ず文の先頭に置く。

時を表す表現（時制）

L 【現在進行形】今している最中の「動き」を表す

形：be動詞 + 動詞ing形。
「～しているところです」。

L 【過去進行形】その時していた
「動作」を映像のように映す

形：was / were + 動詞ing形。
「(その時)～していました」。

【一般動詞】「行動」や「気持ち」をそのまま表す



動作や状態を表す、be動詞以外のすべての動詞。
例：play, study, eat, likeなど。



【一般動詞の疑問文】先頭にDoを置いて「動作」を聞く

Do (Does)

文の先頭にDo(Does)を置き、動詞は必ず原形に戻す。
You play tennis. → Do you play tennis? Yes, I do. / No, I don't.

【一般動詞の過去形】過去に起こった「出来事」を語る

規則動詞(ed)と不規則動詞(go→went, eat→ate)がある。play→played
疑問文・否定文ではDidを使い、動詞は原形に戻る。
go→went

★最重要ルール：三人称・単数・現在（三单現のs）★

主語が「三人称」かつ「単数」で、文が
「現在形」のとき、一般動詞にsやesがつく。

※三人称単数=I(一人称)とYou(二人称)
以外の単数のもの全て。
例：He, She, It, Tom, My motherなど。

特殊な変化に注意
study → studies
have → has

⚠ 疑問文・否定文ではDoesを使う
Doesを使うと、動詞のsは消えて原形に戻る。
例：He plays soccer. → Does he play soccer?

【命令文】動詞で始めて相手に「指令・お願い」をする
主語を省略し、動詞の原形で始める。「～しなさい」。
丁寧にするならPleaseをつける。禁止は動詞の原形。

その他的重要表現

【Let'sの文】一緒にしようと相手を「誘う」

Let's + 動詞の原形。「～しましょう」。
答え方：Yes, let's. / No, let's not.

【指示代名詞】近い物と遠い物を「指示する」

近い：this (これ) / these (これら)
遠い：that (あれ) / those (あれら)。
单数と複数で使い分ける。

動詞は必ず原形。

【未来表現】

意志・予測 vs 決まった予定

will + 原形
その場で決めた意志・予測。前から決めていた予定。
「～するつもりだ」。

be going to + 原形
～する予定です」。



【助動詞】文気持ちや意志を動詞に「添える」
can(できる), will(だろう), must(すべき)など。
話し手の「気持ち」を動詞にプラスする。



【人称代名詞(目的格)】動作の対象「～を」「～に」
me(私を/に), us(私たちを/に), you(あなたを/に),
him(彼を/に), her(彼女を/に), it(それを/に),
them(彼らを/に)。

中学2年生の重要英文法 総まとめノート

サクッと受験ノート

Created by JUKEN CAMP

存在を伝える【There is / are】

There is / are ~ 「～があります / います」

そこに物が「存在する」ことを伝える表現。

→ 使い分けのルール
There is + 単数名詞
There are + 倍数名詞

* 文末に場所を表す言葉が来ることが多い。

ものを比べる【比較表現】

比較級 「(2つのうち)～より…」

形は「形容詞 / 副詞-er」または「more + 形容詞 / 副詞」。

比較対象は 'than' で示す。(注意: good/well → better)

最上級 「(3つ以上の中で)一番～」

形は「the + 形容詞 / 副詞-est」または「the most + 形容詞 / 副詞」。

範囲は 'in' (場所) / 'of' (数) で示す。(注意: good/well → best)

as ... as ~ 「～と同じくらい…」

形は「as + 形容詞 / 副詞の接続 + as」。

'not as ... as' ~ で「～ほど…ではない」という意味になる。

文をつなぐ【接続詞】

When 「～する時」

時を表す。文頭にも文中にも置ける。

L ↗
When A, B.
B when A.

If 「もし～なら」

条件を表す。文頭にも文中にも置ける。

L ↗
if A, B.
B if A.

that 「～ということ」

名詞節を導き、動詞の目的語になる。
'think that ~' 「know that ~」 の省略可能。

S V **that** + 文

Because 「なぜなら～なので」

理由を表す。Why?..?

Why...? → Because...

Placcy 「～ということ」

理由を表す。Why?で聞かれた質問の答えになる。

S → 文

While 「～している間に」

期間を表す。進行形と替用使われることが多い。

While A is -ing...

動詞の形を変える①【不定詞(to + 動詞の原形)】

名詞的用法 「～すること」

動詞を名詞のように使う。

(例: like to play, want to study, try to read)

形容詞的用法 「～するための～」「～すべき～」

前の名詞を説明する。

(例: something to drink, time to go, homework to do)

副詞的用法 「～するために」「～して」

目的や感覚の原因を表す。

(目的の例: go to see a movie / 感覚の原因の例: glad to meet you)

動詞の形を変える②【動名詞(動詞のing形)】

動名詞 「～すること」

動詞を行為そのものを表す名詞として使う。(例: playing, studying)

→ 注意する動詞

finish, enjoy, stop の後ろには必ず動名詞が来る。(不定詞は使えない)

finish → ~ing
enjoy → ~ing
stop → ~ing

文のカタチ【文型】

第4文型 SVOO 「人に物を～する」

構文は「主語 + 動詞 + 人(O) + 物(O)」。人に物を表す、与える動作を表す。

→ 第3文型への書き換え
「物 to 人」の形になる動詞
(give, show, teach, tell)
「物 for 人」の形になる動詞
(buy, make, cook)

第5文型 SVOC 「OをCにする/と呼ぶ」

構文は「主語 + 動詞 + 自由語(O) + 補語(C)」。

O = C の関係が成り立つのが特徴。

→ 代表的な動詞
call A B (AをBと呼ぶ), name A B (AをBと名付ける),
make A B (AをBの状態にする), keep A B (AをBの状態に保つ)

特別な表現

受動態 「～される」

～される側が主語になる表現。形は「be動詞 + 過去分詞」。

行為着は 'by ~' で示す。

→ 重要な達語
be made of / be made from (~で作られている),
be interested in (~に動機がある), be born (生まれる),
be known to (~に知られている) なども覚えよう。

感嘆文 「なんて～なんだ！」

驚きや感動を強く表現する。

→ 2つのパターン
What a + 形容詞 + 名詞! (例: What a beautiful picture!)
How + 形容詞 / 動詞! (例: How beautiful!)

中学3年生の重要英文法 総まとめノート

サクッと受験ノート

Created by JUKEN CAMP

現在完了形

【経験】～したことがある



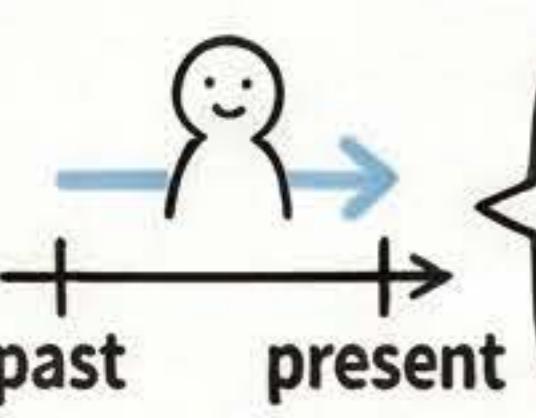
過去の経験や、それについての記憶を語る例に使う。
「have/has + 過去分詞」の形。

【完了】ちょうど～したところだ



動作がちょうど今、完了したことを表す。
「have/has + 過去分詞」の形。

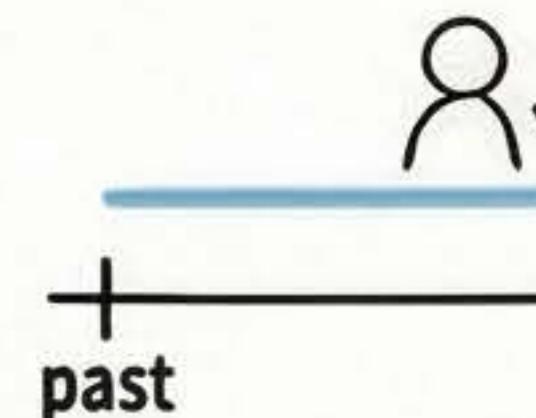
【継続】ずっと～している



ある状態が過去から今までずっと続いていることを表す。
「have/has + 過去分詞」の形。

現在完了進行形

【動作の継続】ずっと～し続けている



過去から現在までの動作の継続・流れを強調して表す。
「have/has + been + -ing」の形。

名詞を後ろから説明するカタチ

【現在分詞】～している名詞

名詞 + -ing

[名詞 + -ing ...]

名詞の後に「-ing」のカタマリを重いて、名詞の動作を説明する。

頻出例

made in Japan → 「日本で作られた」 → 「日本製の」

【過去分詞】～された名詞

名詞 + 過去分詞

[名詞 + 過去分詞 ...]

名詞の後に「過去分詞」のカタマリを重いて、名詞が受ける動作を説明する。

関係代名詞

【主格】 (Subjective Case)

主語の働きで
名詞を説明



「～する(人/物)」。
先行詞の直後に
who(人), which(物),
that(両方)を置き、
すぐ後ろに動詞が
続く。

【目的格】 (Objective Case)

目的語の働きで
名詞を説明



「(私が)～する(人/物)」。
先行詞の直後に
whom/who(人),
which(物),
that(両方)を置く。
しばしば省略される。

【所有格】 (Possessive Case)

持ち主を示して
名詞をつなぐ



「その(人/物)の
～が…である」。
先行詞の直後に
whose(人・物)
を置く。

不定詞・その他の重要構文

【It is for to構文】長い主語を後ろに回す

It is 形容詞 for 人 to 動詞の原形。
「(人)にとって～することは…だ」。

【too ~ to ...構文】～すぎて…できない

too 形容詞/副詞 to 動詞の原形。
「あまりに～なので…できない」。

【原形不定詞】toなしで動詞の原形が続く

- 使役動詞 (make/let/have + 人 + 原形)
- 知覚動詞 (see/hear + 人 + 原形) の後で使う。
- help + 人 + (to) 原形も重要。

【間接疑問文】文の中に疑問文を埋め込む

- 語順が「疑問詞 + 主語 + 動詞」になる点に注意。

【付加疑問文】文末で念を押す

- 肯定文には否定形、否定文には肯定形を付ける。
「～ですよね?」という意味。

仮定法

【仮定法過去】現実とは違う現在の想像

If [主語] + 動詞の過去形,
[主語] + would/could + 動詞の原形。
「もし(今)～なら、(今)…だろうに/できるのに」。

仮定法過去の注意点
現在の事実に反する
内容を語る。If句のbe
動詞は、主語に随わらず
wereを使うのが基本。

【I wish + 仮定法】叶わない現在の願い

I wish [主語] + 動詞の過去形。

「(今)～であればいいのになあ」。実現可能性が低いことを示す。

